

# 関 空 新 中 期 計 画

(2006 ~ 2008 年度)

2006年4月

関西国際空港株式会社

## 関空新中期計画(2006～2008年度)

### ・関西国際空港の目指すもの

- 複数滑走路を有し24時間稼働する日本初の完全空港として、西日本および東アジアに強みを持つ国際拠点空港への発展を追求し、グローバルな人と物との交流に貢献する。
- お客様第一主義に立って、お客様の基本ニーズ(「安全・安心」、「利便性」、「快適性」)を徹底追及し、顧客満足度ナンバーワンの空港を目指す。

### ・財務方針

本計画期間中に2期滑走路が限定供用されることを踏まえて、1期滑走路を含めた空港全体でその有効性を最大限に発揮した事業展開を図るとともに、「安定的な経営基盤を確立し、有利子債務の確実な償還を期すために設けられた補給金制度の趣旨等を踏まえ、一層の経営改善を進め、安定的に経常黒字を確保し、補給金及び政府保証債に頼る必要のない安定的な経営基盤を一日も早く確立するよう努める」とした大臣間合意(平成16年12月18日)の趣旨を踏まえて、経営基盤の更なる安定化を図るべく全社を挙げて取り組む。

### ・事業方針

「基本テーマ」

2007年2期限定供用の実現に万全を期し、1期を含めた経営資源を最大活用しつつ空港価値の最大化を図る

- ・2期限定供用開始に向けた整備の確実な実施および2本の滑走路の安全かつ効率的な運用
- ・複数滑走路化の利点を活かした強力なエアポートセールスの展開
- ・日本における航空物流拠点としての確固たる地位確立への取り組みの強化
- ・旅客増や多様化する顧客ニーズを踏まえた商業サービスの強化
- ・顧客満足度の維持・向上を目指した施設能力およびサービスの向上
- ・2期限定供用後も経常黒字を確実に確保すべく、徹底した経費の節減
- ・人材育成や人材の多様化等社員の能力向上による企業としての総合力の向上

- (1) 2期限定供用開始に向けた整備の確実な実施および2本の滑走路の安全かつ効率的な運用

2期限定供用開始に向けた安全かつ確実な整備の実施

- ▶ 2007年限定供用に向けた安全かつ確実な工事の実施と整備工程の厳守

関係機関と連携し、利用者の意向にも配慮した2本の滑走路の効率的な運用

- 関係機関と連携し、安全かつ顧客利便にも配慮した滑走路運用およびスポット運用の実施

## (2) 複数滑走路化の利点を活かした強力なエアポートセールスの展開

### 容量拡大を活かした旅客便の誘致

- 増便・新規就航に向けたエアポートプロモーションおよびトップセールスの実施
- ターゲットを絞った新規航空会社の誘致
- 際内乗り継ぎ機能強化の観点から国内線ネットワーク拡充
- 伊丹からのシフト便を中心に国内線ネットワークの維持・充実
- 定期便化への足がかりとするためのチャーター便の誘致
- ビジネスジェット需要の新規開拓

### 旅客需要拡大に向けての取り組み

- 多様な顧客ニーズに応じた特色ある旅行商品の企画・協力
- 早朝・深夜の旅客便の拡大およびこれに対応するアクセスの改善
- 経済界等との連携によるビジネス需要の取り込み
- 自治体・関係団体との連携によるコンベンション・イベントの誘致、修学旅行の利用促進
- 「KANKU CLUBカード」の発行により、関空を多頻度ご利用頂くお客様に対して様々なサービスを提供

## (3) 日本における航空物流拠点としての確固たる地位確立への取り組みの強化

### 24時間フル稼働をセールスポイントとした貨物便の誘致および需要の喚起

- 増便・新規就航に向けたエアポートプロモーションおよびトップセールスの実施
- 真の24時間空港化による深夜貨物便の利用促進
- 関西の産学官が一体となった国際物流戦略チームとの連携

### 物流需要動向に即した物流機能拡充の取り組み

- 貨物需要に対応した国際貨物施設の整備による貨物事業者の誘致

## (4) 旅客増や多様化する顧客ニーズを踏まえた商業サービスの強化

### 収支採算性を考慮し、既存施設や遊休資産を最大限活用したお客様にとって魅力のある事業展開への取り組み

- PTBの施設コンセプトの再構築への取り組み
  - PTB 2階北側飲食店区画をフードコートスタイルにリニューアル実施
  - PTBのその他の区画のリニューアルについても検討
- エアロプラザ等の資産の有効活用を検討
  - 2期供用に伴うロケーションを活かした飲食店の再編
  - タカシマヤ跡地の活用策の検討

- 広告事業の取り組み強化
  - (株)関西エアポートエージェンシーを総代理店とした体制へ移行
  - 新たな広告媒体も含めた広告営業の強化
- 集客への取り組み
  - イベントと連携した店舗の販促活動の実施

お客様満足度の向上と収益向上を目指したトランジットエリアの再開発への取り組み

- お客様が快適に過ごせる施設整備および収益拡大を目指した店舗展開の2つの観点からトランジットエリアを含む国際線制限内エリアの再開発を検討

(5) 顧客満足度の維持・向上を目指した施設能力およびサービスの向上

**「需要が増加してもサービスレベルを維持できる施設能力の向上」**

需要増に対応できる1期ターミナル施設の能力向上

- 2期ターミナル供用までの増大する旅客需要に対応するため処理能力向上を図り1期施設をフル活用
  - チェックインカウンターの増設、国際線の受託手荷物検査のインライン化、保安検査ブースの増設等

1期施設の能力限界を見極め、お客様のニーズに応えられる今後の空港のあり方について検討

- 1期施設のフル活用を図るとともに、需要動向を見つつ今後の空港のあり方について検討

**「お客様が安心・快適にご利用頂ける空港としてのサービス向上」**

安全(機能面・セキュリティ面)に万全を期した管理・運営の実施

- 滑走路全面改修、島内高架橋の耐震補強等の実施
- 同時テロ以降のセキュリティレベルの高度化に対応した「国家民間航空保安プログラム」および「航空保安対策の基準」に基づく保安体制の確保
  - 国際線の受託手荷物検査のインライン化、貨物検査装置の導入等

顧客満足度の維持・向上を目指した施設等の整備やサービスの展開

- お客様に必要な情報を提供するため、旅客便の増加ならびに共同運航便の増加に起因する旅客案内情報システム(PIS)の表示容量不足の解消の実現。
- 強風による鉄道の運行ストップを最小限にとどめるための連絡橋防風対策の実施
- 高齢者や身障者にも配慮した人に優しい施策の展開
  - 小型カートの制限エリアへの試験的導入、トイレ施設の改善(オストメイト対応型トイレの設置等)

(6) 2期限定供用後も経常黒字を確実に確保すべく、徹底した経費の節減

固定的経費の削減努力を続けるとともに、経年劣化や2期供用によるコストアップについては創意工夫により極力抑制

➤ 固定的経費の削減

経費削減目標 30億円(＊)

＊16年度決算をベースに削減対象経費(2期限定供用開始に伴う経費を含む)の約1割を目処に算出

- 開業後10年を経過し、耐用年数を超える資産が増加する中、更新投資抑制による減価償却費が減少し、収支改善に寄与してきた一方で、今後経年劣化や2期供用によるコストアップが見込まれるが、創意工夫により極力抑制に努力

子会社と一体となった効率化に向けた取り組み

- 子会社に委託した業務について、グループ全体の営業力強化とお客サービスレベルの向上を図りながら子会社と一体となって運営の効率化を達成
- 本社業務の子会社への委譲、子会社と共同して業務原価、仕様水準、調達方法の見直し等を検討
- 関連各社との統一した会計処理・グループ全体での資金収支の適正管理等による連結会計の強化

人員の抑制に引き続き努めつつ、営業力強化も睨んだ人員の適正配置

- 一層の業務の効率化等を推進することにより会社全体においては人員の抑制を図るべく引き続き努力

人員削減目標 40名(＊)

＊17年度予算定員の約1割を目処に算出

2期滑走路が限定供用を開始する平成19年度中に、更なる削減に向けて検討

- 営業力強化の必要性を考慮し、全社人員の抑制を図りつつも人員の適正配置に努力

(7) 人材育成や人材の多様化等社員の能力向上による企業としての総合力の向上

プロパー社員の割合をさらに高め、業務の中核を担う人材として育成

- プロパー社員化を推進
- 業務スキル、CSマインド、管理職資質の向上等人材育成に注力
- 個人が能力発揮できるよう、特性評価や配置への配慮等の環境づくりの実施

様々な経験を持つ多様な人材の組み合わせによる多角的なものの見方ができるような組織作り

- 事務系・技術系間の人材交流や継続的な中途採用の実施による多彩な人事構成の確立

将来の完全民営化を見据えた人事制度の検討

業績目標(単体)

2006年度事業計画

営業収入	1,067億円
営業損益	240億円
経常損益	110億円

発着回数	11.9万回
------	--------

2008年度業績目標

営業収入	1,153億円
営業損益	206億円
経常損益	82億円

発着回数	13.5万回
------	--------

以上